

本日はお忙しい中、OSDの記者発表にお集りいただき、誠にありがとうございます。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

新体制の発表の前に、(ご存じない方々も多いと思いますので) OSDの概略とこれまでの経緯をご説明させていただきます。

(中略)

当初は、(ひきこもりの子供をもつ) 親御さんにご本人の2世代にわたるライフプランニングにより、安心して生活していける基盤づくりのお手伝い(具体的には、広い意味での相談対策や管理、就職支援を含む相談事業)をするため、主に親御さんからのご相談を中心に活動をはじめましたが、相談者の属性、相談内容は想像以上に多岐に亘り、明らかにひきこもりでは「ない」、8050の世代の方から「困っている」という相談も寄せられています。その内容は、実際にひきこもりである本人やご家族から寄せられるご相談に非常に近い、という特徴があります。

「ひきこもり」とは、ご存じのとおり対象となる本人の状態像、いわば外から見たイメージであり、厚生労働省の定義では、「仕事や学校には行かず、かつ家族以外の人との交流はほとんどせず、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」、時々買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、とありますが、実際は便宜的なものにすぎず、ひきこもり本人の本質を現したものではありません。そのため、この「ひきこもり」というカテゴリー分けは、時として、ある一定層を切り捨てる事態を招きかねない、という危機感も生まれるに至りました。

例えば、上記定義に当てはまる方であっても、本人が頑なに「ひきこもりではない」と主張するために不利益を被っている(相談に繋がる機会を逃している等) ケースや、明らかにひきこもり同様の状況であるが、定義には当てはまらない箇所があるため相談を憚られて事態が悪化してしまったケース等が散見されています。仕事には断続的にかかわっているが、継続できず将来に不安を抱えているケース、働こうと思っても適当な先が見つからず、気力や体力の衰えを感じる中、どうしていいかわからないと訴えるケース、孤立へと向かうケースなどです。

これらのケースは、例えひきこもりの定義には当てはまらなくても、「生きづらさ」という点で、いわゆる8050世代のひきこもりの人々の状況と重なる部分が多く存在するのです。ちなみに、これらの悩みは、少子高齢化する日本で増えつつある一般の8050世代にも当てはまる部分(例えば、孤独、介護や再就職の難しさや、金銭的・精神的な余裕のなさ等)があるとも感じ、8050問題は、もはやひきこもりだけの問題ではないというのが私たちの実感です。

以上などの背景から、OSD は、相談の対象を 8050 世代のひきこもりの子供のいるご家族から、8050 世代の生きづらさを抱える方々に広げ、相談者の生きづらさによりそい、誰もが生きていく意味を実感できるような社会を目指し、7月から体制を一新いたします。

I、そもそもの団体の趣旨に沿うため、定款の内容を非営利団体に変更をいたします。
収益事業については、その枠内で行う予定です。

II、ひきこもりに理解あるカウンセラーやサポーターが圧倒的に不足していることに鑑み、ひきこもり専門のカウンセラー養成講座を立ち上げます。
誰もが気軽に相談できる環境整備の一助となるべく、10月から開講予定です。

III、8050 問題に対する理解と支援の拡散や、年齢・性別・属性を問わない居場所づくりの資金調達のため、クラウドファンディングを立ち上げます。まずは 1 か所の立ち上げと定着が目標ですが、気軽に継続的に立ち寄る環境づくりには、まず居住地から近いことが重要なため、中長期的には、居場所立ち上げノウハウ・情報の共有を行うことを目指します。

IV、既に行っている、企業とのコラボレーションをさらに強化していきます

企業と個人の相互交流・理解を通じ、個人としては社会参加への足かかりを、企業側は社内の活性化や生産性の向上、社会貢献に寄与する試みです。

- ・ひきこもり当事者を企業の研修講師として紹介（社会参加の場の提供）
- ・ひきこもり当事者の就労体験の場の提供など

また、今後は、特に要望事項が多い、8050 当事者が親子で住めるシェアハウスや介護施設の供給（又はマッチング）、及び親亡き後の財産管理・見守りサービス提供についても具体的に検討を続けてまいります。

一人一人ができる時にできることを。微力ながらこれからも邁進して参りますので、多くの方のみなさまのご指導とご支援を賜りますよう、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

以 上